

## Reader's VIEW

## 2019 Vol.2 へのご意見・ご感想

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

\*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) でご覧いただけます。

◎「主体的・対話的で深い学び」は、どう授業に取り入れればよいか、理解が広がっていないのが現状です。特集の課題整理にまとめられていた白梅学園大学大学院・無藤隆名誉教授の提言は理解しやすく、毎時間行わなくてもよい、教員の働きかけ方が大事だとする内容に共感しました。また、評価のあり方や指導力向上も、指導と評価の一体化の視点でまとめられていて、参考になりました。(滋賀県)

◎特集の課題整理に書かれていることを一人ひとりの教員に落とし込むことが最も必要だと感じました。本校では、主体的な学びのイメージは共有できていますが、対話的な学びの解釈には違いがあり、深い学びについては研修担当の教員にも曖昧な点があります。今回の特集は大変分かりやすくまとめられていて、指導と評価の一体化についても分かったため、今後の参考にしたいと思いました。(北海道)

◎特集の課題整理で示された『「見方・考え方」とは何か?』の図がとても参考になりました。教科で得た知識を問題解決に使うためには、教員がそうした場面設定を適宜行う必要があります。また、主体的な学びや対話的な学び、深い学びのねらいや内容は、以前から課題に挙がっていることであるため、新しいことを行うというより、教材研究や授業計画の深化が重要なのだと再認識しました。(東京都)

◎特集の秋田県大館市の事例では、ふるさと教育とキャリア教育を関連づけた取り組みを、学校と行政が連携して実施している点が素晴らしかったです。勤務校は、歴史のある地域と新しく開発された地域から成る本市の、新しく開発された地域にあるため、伝統行事がほとんどありません。手探りの中、ふるさとに誇りを持てる教育実践をつくり上げようとしており、「ないから、これから創っていける」という発想の転換で、一歩ずつ進めています。(兵庫県)

◎文部科学省「全国学力・学習状況調査」で注目すべきは、

教科の得点以上に「地域への関心と貢献」という意識だと考えます。特集で秋田県大館市立城西小学校の校長が言われた「子どもにとって、地域の中で活動し、地域に貢献する経験はとても重要です。そうした経験を積み重ねて、地域には自分たちにできることが数多くあるという感覚を育みたい」という考えに同感であり、その感覚が、学力を始めとするすべての生きる力の源になると思います。(島根県)

◎特集の埼玉県戸田市の事例で紹介されていた産官学連携に関心を持ちました。企業で働く人から社会で求められる資質・能力について聞く機会があり、その話は指導主事の説明よりも説得力があるという点に共感しました。私たちもそうした機会を設けて、自らの指導を変えていきたいと思いました。(岐阜県)

◎特集の埼玉県戸田市の事例では、PBLでの授業づくりを「総合的な学習の時間」を中心に行っており、同様の実践が全国にもっと広がるとよいと思いました。「総合的な学習の時間」によって学力向上を図るという面でも、とても重要な取り組みだと思います。(新潟県)

◎連載「わがまちの未来」では、東京都文京区の「選ばれ続ける」自治体を目指して、未来の目標や想定される社会の有様から逆算し、今すべきことを考える「バックキャスト」の教育システムが印象に残りました。これからの社会で生き残るための教育として必要であり、教育行政として大切な視点だと思います。(千葉県)

◎連載「創造的働き方改革のすすめ」では、「カエル会議」の進め方が参考になりました。目標ばかりを高く掲げると、最初から無理だと思ってしまいます。しかし、教育の質を上げる方向性でここまでなら行けるかもと思える目標を設定すれば、意欲も出ます。また、「カエル会議」というネーミングも成果を期待できると感じました。(山口県)

## 編集後記

連載「わがまちの未来」では、島根県益田市の山本浩章市長取材しました。同市では、「人づくり益田」を掲げ、行政・学校・地域が一体となって社会教育に力を入れて、まちの活性化に取り組まれています。中でも、山本市長自らが「カタリ場」に参加し、地域の大人の1人として中学生と対話をされているなど、自治体の長が積極的に教育の現場にかかわられている姿に、大変感銘を受けました。(西村)

## VIEW21 教育委員会版 2019 Vol.3 2019年12月2日発行/通巻19号

発行人 山崎昌樹  
 編集人 春名啓紀  
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション  
 ベネッセ教育総合研究所  
 印刷製本 研精堂印刷(株)  
 編集協力 (有)ペンダコ  
 執筆協力 佐藤 智、二宮良太、中丸 満  
 撮影協力 荒川 潤、福山 哲  
 ヤマグチイキ

◎お問い合わせ先  
 フリーダイヤル 0120-350455  
 〒700-8686  
 岡山市北区南方3-7-17